

事 項	アカヒゲホソミドリメクラガメの多発要因と斑点米被害特徴		
ね ら い	平成11年に多発したアカヒゲホソミドリメクラガメの発生要因と、斑点米被害の特徴を明らかにし、防除の参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 予察灯誘殺数の推移 アカヒゲホソミドリメクラガメは、平成6年頃から増加傾向にあり、平成11年には急激に増加した。</p> <p>2 気温とアカヒゲホソミドリメクラガメ発生量 (1) 5～9月の気温が高いとアカヒゲホソミドリメクラガメの発生が多くなる。 (2) 20℃以下では気温が高くなるにしたがい発生が徐々に増えるが、20℃を越えると急激に増加する。</p> <p>3 多発年の発生消長 多発年では、アカヒゲホソミドリメクラガメの越冬世代成虫が6月にやや多く発生し、その後の7月の第1世代、8月以降の第2世代の発生が多くなる。</p> <p>4 割籾と斑点米の発生状況 メクラカメムシ類による斑点米は割籾に発生し、斑点は鉤合部（合わせ目）にできる。</p> <p>5 防除対策 (1) 耕種的防除法 6月下旬～7月中旬に、水田周辺や畦畔等で草刈りを行う。ただし、出穂期間近の草刈りはカメムシ類を水田に追い立てることになるので行わない。 (2) 薬剤による防除 穂揃期とその7～10日毎に薬剤を散布する。水田だけでなく畦畔にも散布し、できるだけ広域一斉防除を実施する。</p>		
期待される効果	防除対策上の参考となる。		
利用上の注意事項	なし		
担 当	青森県農業試験場 環境部 病虫肥料部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成11年度 青森県農業試験場試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

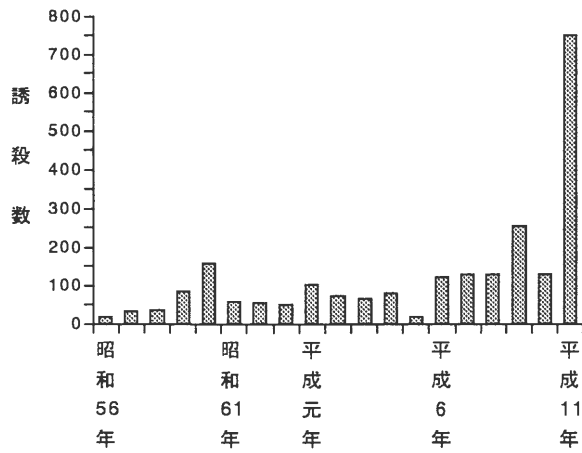


図1 予察灯誘殺数の年次推移 (農業試験場)

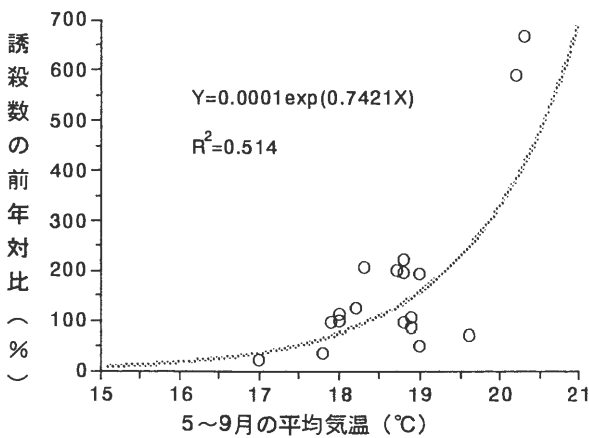


図2 5~9月の平均気温と予察灯誘殺数の前年対比 (農業試験場)

表2 斑点米発生状況 (農試本場作況ほ)

品 種	調査 穂数	稲 数		割 率 (%)	カメムシ被害粒率(%)		
		正常稲	割 稲		正常稲	割 稲	全 体
ゆめあかり	61	5712	290	5.1	0.39	12.41	0.97
つがるロマン	60	5577	316	5.7	0.61	12.97	1.27
むつほまれ	63	5482	397	7.2	0.29	19.14	1.56
アキヒカリ	61	5673	312	5.5	0.26	11.54	0.85

注) 割稲の被害(斑点)は、ほとんどが鈎合部に発生

表1 予察灯誘殺数の前年対比と気温、降水量との相関

変 数*	相 関	P 値
前年対比、5月の気温	0.250	0.3228
前年対比、6月の気温	0.215	0.3983
前年対比、7月の気温	0.526	0.0234
前年対比、8月の気温	0.725	0.0004
前年対比、9月の気温	0.532	0.0218
前年対比、5~9月の気温	0.732	0.0003
前年対比、5月の降水量	0.143	0.5777
前年対比、6月の降水量	-0.421	0.0823
前年対比、7月の降水量	-0.205	0.4215
前年対比、8月の降水量	-0.142	0.5809
前年対比、9月の降水量	0.056	0.8276
前年対比、5~9月の降水量	-0.277	0.2711

注) * : 昭和57年~平成11年の18変数

$$\text{前年対比} = \frac{\text{本年の誘殺数}}{\text{前年の誘殺数}} \times 100$$

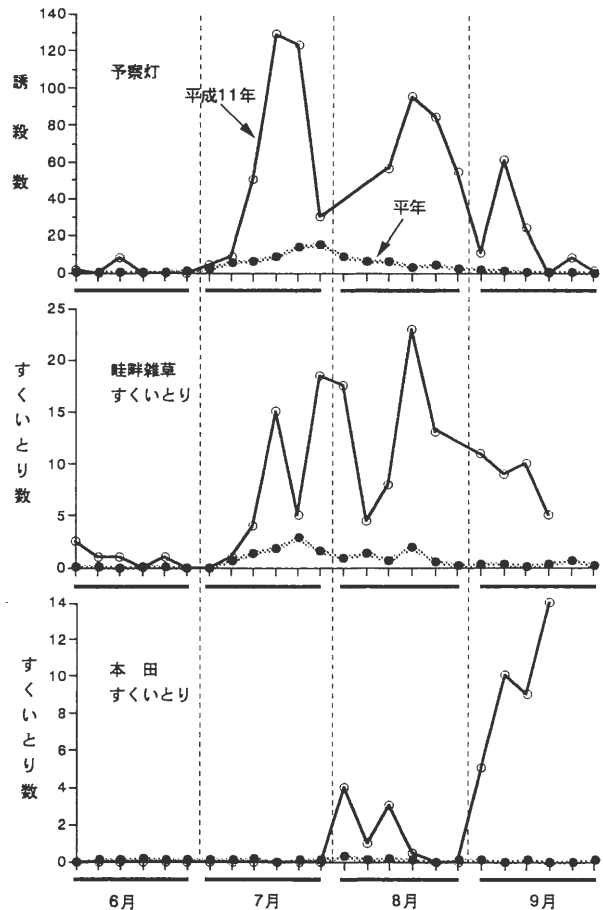


図3 予察灯とすくいとりによる発生推移 (農業試験場)

注) すくいとり数は50回振り当たり、平年は予察灯が昭和56年~平成10年の18か年平均、すくいとりが昭和59年~平成10年の15か年平均